



奇跡の壁画と シルクロード の至宝

奈良市・サマルカンド市姉妹都市提携5周年記念特別展

Special Exhibition Commemorating the 5th Anniversary of
the Sister City Partnership Between Nara City and Samarkand

Miraculous Murals and the Masterpieces of the Silk Roads

シルクロードに残された
奇跡の「アフラシアブ壁画」
日本初公開

7.10^土 - 9.5^日

奈良国立博物館
NARA NATIONAL MUSEUM

主催：奈良市、奈良国立博物館、ウズベキスタン共和国大統領府文化芸術発展基金、
NHKエンタープライズ近畿、読売新聞社

※開館時間、休館日、観覧料、展示期間等の情報は、確定し次第、展覧会公式サイト等でお知らせします。
※展示作品、会期等については、今後の諸事情により変更する場合があります。
最新情報は展覧会公式サイト等でご確認ください。

展覧会公式サイト：<https://kisekino-hekiga.jp/>

舞台は、
世界遺産
ウズベキスタン
青の都・サマルカンド



《報道関係者お問い合わせ先》

「奇跡の壁画とシルクロードの至宝」広報事務局（TMオフィス内） 担当：馬場・永井・西坂

MOBILE：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）

TEL：050-1807-2919 FAX：050-1722-9032 EMAIL：kisekino-hekiga@tm-office.co.jp

開催趣旨

本展覧会は、シルクロードの東西の古都である奈良市とウズベキスタン共和国サマルカンド市が、シルクロードを介した文化交流の歴史を背景に姉妹都市提携を結んでから5周年を迎えることを記念して、関係のさらなる深化をめざして開催するものです。

ウズベキスタンを含む中央アジアは、中国・インド・西アジア・遊牧世界を結ぶ交流の地であり、仏教・キリスト教・イスラーム教・ゾロアスター教など多様な文化・宗教が行きかいました。その文化交流は豊かな芸術世界として結実しており、本展ではその広がりのもと、多彩な文化のあり様を一度に体感できます。オアシス都市に伝えられた「奇跡の壁画」であるアフラシアブ遺跡の壁画など世界的にも有名な作品に加え、^{とみおまるやま}富雄丸山古墳出土品など奈良に関わる貴重な品々も紹介します。

本展覧会は、ウズベキスタンの国宝級の文化財が一堂に集まる空前の大プロジェクトです。シルクロードを通して響き合う歴史と文化の雄大なロマンを感じていただけることでしょう。



レギスタン広場 サマルカンド市所在 15世紀初頭～17世紀半ば
画像提供：駐日ウズベキスタン共和国大使館

1) 展覧会を象徴する「奇跡の壁画」

7世紀のサマルカンド王宮を飾ったアフラシアブ壁画。11メートル四方の部屋の壁一面に描かれたこの壁画は、約1300年もの間、地中に埋もれながら鮮やかな色彩を保ち、現代にその姿を現しました。シルクロードを往来した人々や諸国の使節を精緻な筆致で描くこの奇跡の壁画が、今回初めて奈良に到来します。

2) とみおまるやま 富雄丸山古墳が繋いだ「奇跡のご縁」

サマルカンドの高貴な女性の墓であるコクテパ墳墓ふんぼで出土した「大型虺龍文鏡」おおがたきりゅうもんきょうは、紀元前1世紀ごろに中国で作られた銅鏡で、シルクロード交易を物語る作品です。そして、驚異的な巨大蛇行剣だこうけんの発見で有名となった奈良市富雄丸山古墳の棺のなかからも、同種の「大型虺龍文鏡」が2023年に出土しました。最新の成果から見えてきたシルクロードをめぐる「奇跡のご縁」を紹介します。

3) ウズベキスタンの至宝

ウズベキスタンを含む中央アジアには、四方にのびるシルクロードを行きかう人びとによって、さまざまな文化や宗教がもたらされました。アフラシアブ遺跡の「使節の間」しせつ ま壁画はもとより、仏教伝来の過程を示すファヤズテパ遺跡出土の釈迦三尊像しゃか さんぞんぞう、西方とのつながりじゅうにきよくはいを示す十二曲環など、交流による芳醇な芸術世界が展開しています。

主な 展示作品

「使節の間」^ま壁画 アフラシアブ遺跡 7世紀（660年頃） アフラシアブ博物館

サマルカンドのアフラシアブ遺跡で発見された、中央アジアを代表する7世紀の宮殿壁画です。11×11mの主室4面に描かれた壁画には、ソグド人をはじめ、唐・高句麗・突厥など様々な民族の使節が色鮮やかに描かれています。本壁画は、交易の中心地であったサマルカンドの繁栄と文化的多様性を示し、まさに「シルクロード」を象徴する壁画として世界的にも有名な壁画です。

そのなかでも、今回出陳するうち南側の壁画には、ゾウ・ウマ・ラクダに乗るサマルカンドの王侯貴族たちが、ガチョウとともに儀礼行列をなす場面が描かれています。4面のなかでも力強く描かれ、鮮やかな色彩が最も良く残されている点においても奇跡的な作品です。

日本
初公開



全図



部分①



部分②

きりゅうもん
大型虺龍文鏡 コクテバ墳墓 銅製 紀元前1世紀 ウズベキスタン国立歴史博物館

日本
初公開

サマルカンドのコクテバ遺跡で、金製装身具などを伴う高貴な女性の墓から出土した銅鏡です。虺龍文鏡は、紀元前1世紀ごろに中国・前漢で作られ、サイズには大・小がありました。本作品は、中国以外では5例しか見つかっていない大型品のひとつ（径18.5cm）です。シルクロードが開拓されたとされる紀元前1世紀ごろに、中国とウズベキスタンの間に文化交流があったことを証明する逸品です。



きりゅうもん
大型虺龍文鏡 富雄丸山古墳 銅製 紀元前1世紀（古墳の築造は4世紀後半）
奈良市教育委員会

4世紀後半の奈良市富雄丸山古墳^{とみおまるやま}の造出し部で発見された棺の中から出土した銅鏡です。国内40例のうち最大の虺龍文鏡であり、国内出土事例では2例しかない大型品（径19.1cm）です。鏡が作られてから約500年を経て古墳に埋められた稀有な事例であり、そして奈良市と姉妹都市であるサマルカンドのコクテバ墳墓からも上記の大型虺龍文鏡が出土しています。ここからシルクロードの東西をつなぐ絆がうかがえます。



だこう
蛇行剣 富雄丸山古墳 刀身：鉄製 4世紀後半 奈良市教育委員会

富雄丸山古墳から出土した、蛇のように曲がりくねった形の鉄剣です。一般的な刀剣は最長でも120cm程度であるなか、本作品は全長237cmと圧倒的な長さを誇ります。形状や長さから、実戦のために製作されたものではなく、呪術的な意味をもつ作品と考えられます。大型虺龍文鏡の出土によってサマルカンドとのご縁を繋いだ、富雄丸山古墳の迫力を物語る傑作です。



主な 展示作品

へびがたせきせいひん 蛇形石製品

フェルガナ溪谷ソーク地区 石製 紀元前3000～前2000年
ウズベキスタン国立歴史博物館

日本
初公開

今回の出陳作品のうち、もっとも古い時期に位置づけられる作品です。2匹の蛇が絡み合い、胴部には石こう状の白色物質で点状の象嵌が施されています。中央アジアに生息する実際の蛇を忠実に写したものかもしれません。このような把手付の石製品の用途は明確ではありませんが、鉱石やラピスラズリ原石の重さを測る分銅として用いられたともいわれます。



しゃかさんぞんぞう 釈迦三尊像

ファヤズテパ遺跡 石製 1～3世紀
ウズベキスタン国立歴史博物館

ウズベキスタン南部、アフガニスタン国境に近いテルメズ近郊の仏教遺跡ファヤズテパから出土した石像です。瞑想する釈迦と、両脇に合掌する僧を表す三尊像です。ガンダーラ仏とはやや異なる中央アジア独特の様式です。破壊されたものが多いこの地域の仏像の中でほとんど損傷がないという点で「奇跡のブッダ」と言えます。



きぞうしゅりょうず 騎象狩獵図壁画

ヴァラクシャ遺跡 8世紀（730年頃）
ウズベキスタン国立美術館

日本
初公開

ヴァラクシャは、ブハラ近郊に築かれたソグド人の宮殿遺跡です。象を操る2人が豹と戦い、躍動しています。鮮やかな赤色から受ける迫力的一方で、二人の人物が乗る象は、牙の生え方や人物などとの大きさのバランスが実際とは異なり、どこかユーモラス。狩獵図は王侯の勇氣と英智を示すものとして描かれました。



おうこうぞうとうぶ クシャーーン王侯像頭部

ダルベルジンテバ遺跡 粘土製 1～2世紀
ウズベキスタン共和国科学アカデミー美術研究所

テルメズの北方に位置するダルベルジンテバ遺跡の郊外の寺院跡から出土したものです。小さな円形の飾りの付いたとんがり帽子を被った男性の頭部です。このような形のとんがり帽子は当時この地を支配したクシャーーン朝の^{おうこう}王侯の姿で、仏像の周囲に配された供養者と考えられています。口元に微笑みを含んだ若々しい顔立ちでこの遺跡を代表する彫像です。



ぼさつぞう 菩薩像

ダルベルジンテバ遺跡 粘土製 2～3世紀
ウズベキスタン共和国科学アカデミー美術研究所

ターバンを付け華麗な装飾をまとった人物の上半身です。服装や眉間に^{びやくごう}白毫の穴を表すことから菩薩像と考えられます。装身具は型押しで作ったものを貼り付けるという技法的な特徴が見られます。やや小ぶりな目鼻立ちには、インドのマトゥラー美術の影響も感じられ、様々な地域の様式が融合した中央アジア美術の特色が表れています。



へいし ぞうとうぶ 兵士像頭部

ハルチャヤン遺跡 粘土製 1世紀
ウズベキスタン共和国科学アカデミー美術研究所

ハルチャヤン遺跡は、クシャーーン朝の宮殿の跡で、そこには王侯貴族や戦士たちの像が置かれていました。この像は^{かつちゅう}甲冑を着けた兵士の像で大きな目の^{せいけん}精悍な顔立ちが特徴です。粘土で形を作って表面を彩色して仕上げる^そ塑像で、顔の部分には酸化鉄を主成分とする顔料による彩色がきれいに残っています。



主な 展示作品

しかがたこうろ 鹿形香炉

ダルベルジンテパ遺跡 銅製 1～2世紀
ウズベキスタン共和国科学アカデミー美術研究所

円形の火皿の縁に、牡鹿がちょこんと前脚をそろえて乗せる姿がユーモラスです。後脚が失われていますが、おそらく長く伸びて把手になっていたと思われます。火皿の底には三つの突起が付き、これを置くことも、持ち歩くことも出来ました。火皿に油を入れて灯明に使った可能性もありますが、ダルベルジンテパ遺跡には仏教寺院があり、香炉とみるのが良いでしょう。高貴な動物（牡鹿）が捧げる香りは格別だったに違いありません。



ウズベキスタン
国外初公開

そうしよくつきこびん ガラス装飾付小瓶

アフラシアブ遺跡 ガラス製 9～10世紀
サマルカンド国立歴史文化博物館

澄んだブルーが印象的なガラスの小瓶です。ガラス胎ちゅうぶを宙吹きで丸く膨らませ、高台や口縁を整えた後に、波打つ突起を手際よく貼り付けて作ったものです。中には薔薇水ばらのような香水を入れていたのでしょうか。貴婦人の愛用品だったかもしれません。

アフラシアブ遺跡では、ブルーや透明のガラス器が多く見つかっています。いずれもローマガラスの製法を受け継いだイスラムガラスで、実用的でシンプルな形が主流の中、この小瓶だけは出色の品。割れず、曇らず千年の時を超えた、まさに奇跡の小瓶です。



ウズベキスタン
国外初公開

主な 展示作品

じゅうにきょくはい

十二曲杯

サマルカンド地方 銀製 6～7世紀 サマルカンド国立歴史文化博物館

れんべん

蓮弁状の12の屈曲があるので、十二曲杯と呼ばれます。このように口縁が屈曲した容器はサーサーン朝ペルシアの金・銀製容器に起源があり、八曲のものもみられ、ポーランドや中国で金・銀製の出土例があります。中央に凸があるのはギリシアの「フィアラ杯」の影響です。日本でも、正倉院宝物中に緑瑠璃十二曲長坏、金銅八曲長坏があります。シルクロードを通じて、西方文化へのあこがれを反映したものであったことがうかがえます。



そうしよくつきのうこつき

装飾付納骨器

ムラクルガン遺跡 土製 7～8世紀
サマルカンド国立歴史文化博物館

ソグド人たちは、おもにゾロアスター教を信仰していました。彼らは鳥葬を採用し、白骨化した遺体は納骨器（オスアリ）に納められました。本作品では、聖なる火を息で汚さないようマスクを着用した2人の聖職者が、聖火壇に向かいあっています。ピラミッド形の蓋に描かれた女性の踊り子たちは、楽園のありようや、あるいは完璧さ、不滅性を擬人化して表している可能性があります。



主な 展示作品

女性用コート（チャパン）

ブハラ 19世紀～20世紀
サマルカンド国立歴史文化博物館

日本
初公開

前開きの長袖、長丈の女性用コート。ウズベク語でチャパンと呼ばれます。表地は、経糸たていとが絹よこいと、緯糸が木綿の交織布で、染め分けた経糸により紋様を表す経絣たてがすり。日本古代の経絣との類似をうかがわせます。

本作品はブハラで作られたとされ、紫地に黄色・白・赤による大胆な絣紋様かすりもんようを配し、特に背面に配された生命力を象徴する植物をモチーフとした紋様が目を惹きます。



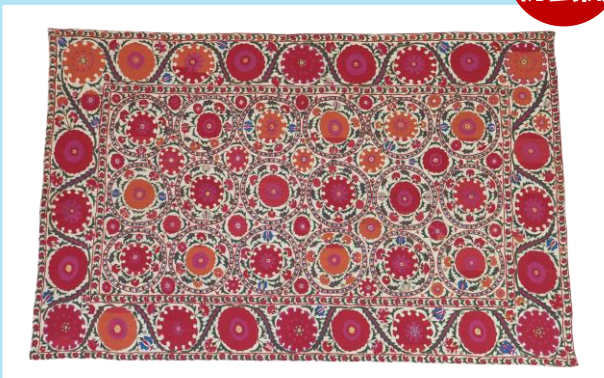
ししゅうぬの

刺繍布（スザニ）

ブハラ 20世紀初頭 サマルカンド国立歴史文化博物館

日本
初公開

ウズベキスタンを中心に中央アジアの広い地域に見られる刺繍布であり、多く壁掛けや、掛け布、礼拝用下敷きとして用いられます。花嫁の婚礼持参品ともされていました。スザニとは、スザン（針）を用いることから派生した名称で、刺繍もしくは刺繍したものという意味があります。花々や蔓草つるくさ、果物を表現したものが多く、人物や動物を表したものは少ないです。



開催概要

展覧会名：奈良市・サマルカンド市姉妹都市提携5周年記念特別展

「奇跡の壁画とシルクロードの至宝」

会 期：2027年7月10日（土）～ 9月5日（日）

会 場：奈良国立博物館 東西新館

所在地 〒630-8213 奈良県奈良市登大路町50番地

主 催：奈良市、奈良国立博物館、ウズベキスタン共和国大統領府文化芸術発展基金、
NHKエンタープライズ近畿、読売新聞社

奈良国立博物館ウェブサイト：<https://www.narahaku.go.jp/>



アフラシアブ遺跡「使節の間」遠景

《報道関係者お問い合わせ先》

「奇跡の壁画とシルクロードの至宝」広報事務局（TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂

MOBILE：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）

TEL：050-1807-2919 FAX：050-1722-9032 EMAIL：kisekino-hekiga@tm-office.co.jp